

神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書

Report on the Results of “Systematization of Nonwritten Cultural Materials
for the Study of Human Societies” Kanagawa University 21st Century COE Program

東アジア生活絵引

中国江南編

Pictopedia of Everyday Life in East Asia
compiled on South of the Yangzi River, China

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議
The Kanagawa University 21st Century COE Program Center

まえがき

日本では古くから絵に親しんできました。確かに古くは権力者のみがそれを享受しましたが、近世になると支配者だけでなく、民衆も様々な機会に絵を楽しむようになりました。絵は鑑賞する対象としてだけでなく、知識や情報を理解するためにも利用し、さらに観察結果を記録するためにも用いました。絵は日常生活のなかに存在し、絵には人々の生活が描かれました。そのことが、日本において絵引という新しい情報整理・発信の方法が編み出された理由といえるのです。

絵引という全く新しい情報整理・発信の方法は、財団法人日本常民文化研究所が『絵巻物による日本常民生活絵引』全5巻を刊行することで世に登場しました。過去に制作された図像を資料とし、そこに描かれた事物や人々の行為に名称を与えることで、新たな情報を発信するというもので、発案者である洪沢敬三が字引に対する語として絵引を創出して、その獨創性を示しました。それまでは、文字による記録の内容を読み解き、解釈することが研究とされ、図像は挿絵という脇役に過ぎませんでした。絵引が登場することで、図像が人々の生活文化を知るための歴史資料となりました。

神奈川大学日本常民文化研究所となった最初の事業として『日本常民生活絵引』の改訂に取り組み、その新版を刊行いたしました。現在も版を重ねています。21世紀COEプログラムの研究計画にその継承発展の事業を組み込むことは早い段階に決まりました。世界的に見て獨創性が強く、世界に対して新しい情報整理と発信の方法を提供できると考えたからです。図像資料の体系化と情報発信を私共のプログラムのなかの第1班とし、そこに三つの課題を設定しました。第一は、先輩たちの達成した『日本常民生活絵引』を英・中・韓・日の各国語で利用できるマルチ言語版の編纂、第二は『日本常民生活絵引』が編纂できずに残した日本近世・近代生活絵引の編纂、そして第三に、絵引という編纂方式が日本以外の文化でも可能かどうかを検討するための東アジア生活絵引の編纂です。

本書は東アジア生活絵引の1巻です。本書は、18世紀後半の中国江南地方の生活文化に関する絵引です。資料は有名な蘇州を描いた「姑蘇繁華図」です。「姑蘇繁華図」は蘇州の近郊の太湖の辺から始まって、蘇州城にいたり、市街の様相から近郊の虎丘までを描く画卷です。詳細に町並みを描き、そこで暮らす人々の姿も細かく描いています。写実的な描写です。私たちはこの「姑蘇繁華図」を取り上げて絵引編纂を行いました。ここにお届けするのはその第一歩を示す試案本です。中国の特定の時代の社会と文化を日本語で表記することが如何に困難な作業であるかを編纂過程で痛感しました。多くの問題点を抱えたままの試案本としてお届けします。忌憚ないご批判をいただきたいと思えます。

「姑蘇繁華図」は現在中国遼寧省博物館の所蔵です。私たちは博物館において「姑蘇繁華図」を長時間熟覧する機会を得ました。また遼寧省博物館関係者の皆さんからは種々ご教示を賜りました。そのご理解とご教示があつて、この絵引も完成させることができました。ここに深く感謝申し上げます。

2007年12月

神奈川大学21世紀COEプログラム第1班代表
福田 アジオ